

1 章

農地と農村の現状



「実りの秋」

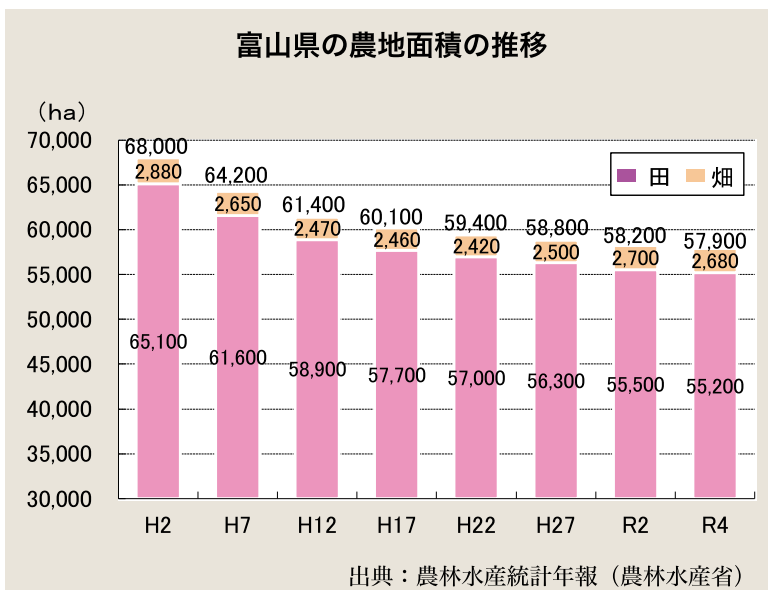
(富山市)

※第9回「とやまの農山村写真展」棚田賞（富山県土地改良事業団体連合会長賞）受賞作品

I 農地の現状

■農地面積の推移

本県の農地面積は、農地の荒廃や住宅用地等への転用が進み、年々減少しており、令和4年度には57,900haとなっています。

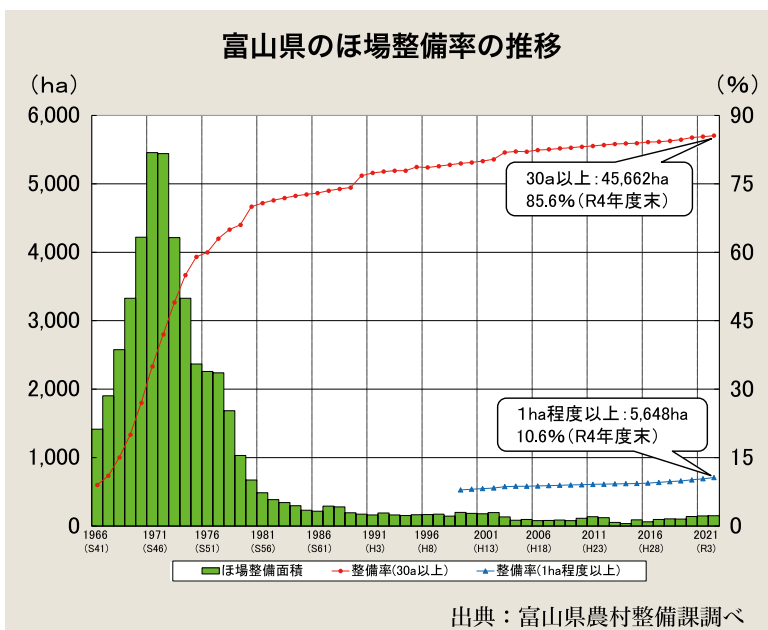


■ほ場整備の状況

本県では全国に先駆けて、ほ場整備が行われ、北海道、福井県、滋賀県に次いで全国屈指のほ場整備率（30a以上）85.6%（全国平均67.5%）となっています。

一方、大区画整備率（1ha程度以上）は10.6%となっており、全国平均の11.6%を下回っていますが、着実に増加しています。

なお、効率的な営農を行うため、近年、地形条件等の地域の実情を踏まえながら、2～3ha程度の大区画ほ場にする整備も進められています。



■農業水利施設の整備状況

本県の農業は豊富な水源を活用し、水稻を中心とした水田農業が営まれ、早くから農業水利施設の整備が進められました。

このため、概成している県内の農業水利施設は、土地改良区等において適切に保管理を行いながら、自然的・社会的状況の変化等を踏まえつつ老朽化対策等を進めています。

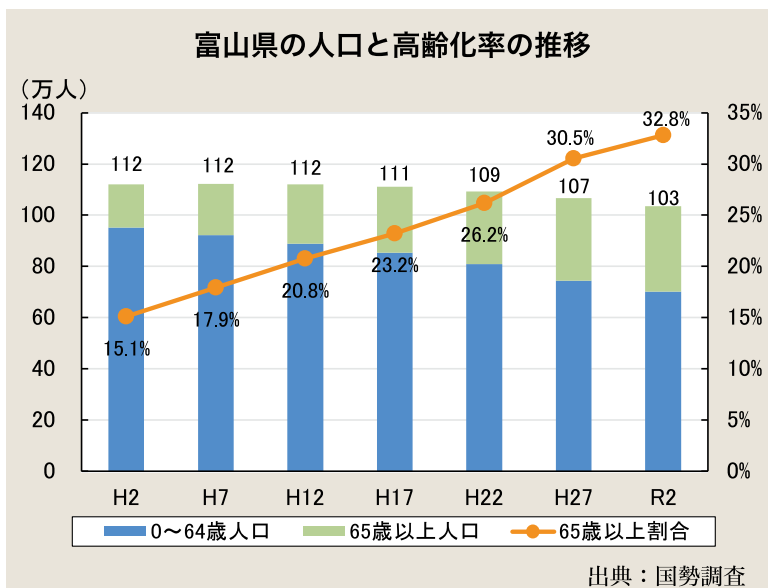
施設区分	全体施設規模		受益面積 (ha)	再建設価格 (百万円)
	箇所数	規模		
ダ ム	9	4,398万m ³	21,940	165,747
頭 首 工	42	224.2m ³ /s	38,744	74,380
た め 池	1,812	1,358万m ³	6,800	78,312
揚水機場	31	12.97m ³ /s	1,932	2,474
排水機場	13	127.7m ³ /s	5,109	21,810
樋 門	8			904
水 路		6,106km		904,405
計	1,915		74,525	1,248,032

出典：富山県農村整備課調べ（R4時点）

II 農村の現状

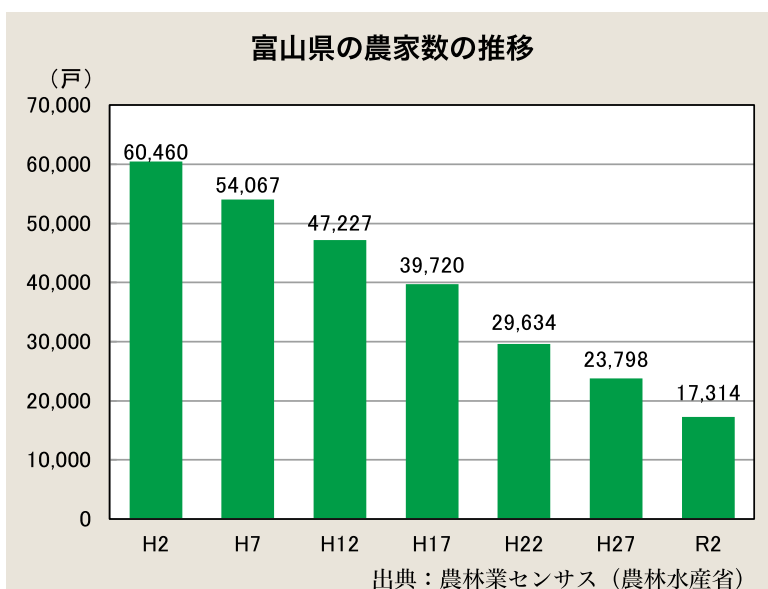
■人口、高齢化の動向

本県の人口は平成10年の112万人をピークに減少に転じ、令和2年には103万人となっています。一方、65歳以上が全体に占める割合は年々増加し、令和2年には32.8%となっています。



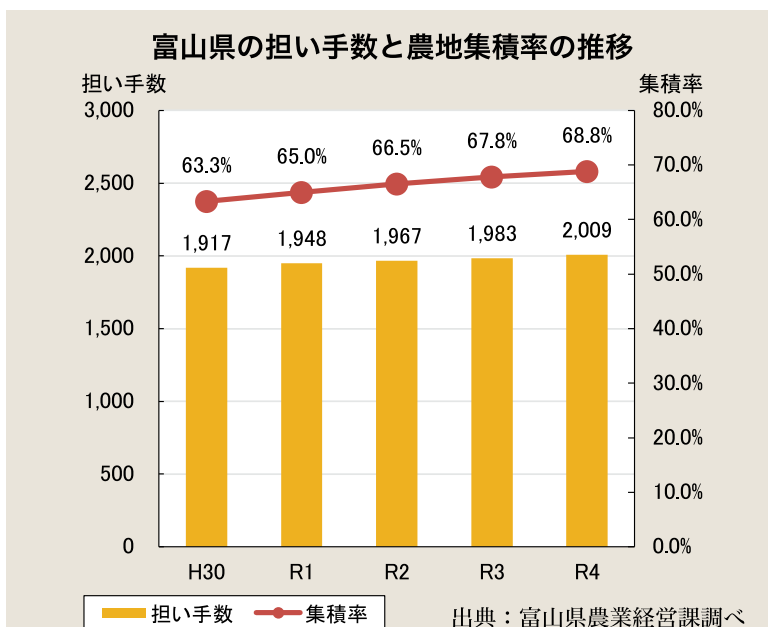
■農家数の動向

農家数は人口減少や高齢化、担い手への農地集積等により、年々減少しており、令和2年には17,314戸となっています。



■担い手数と農地利用集積の状況

農地整備を契機とした集落営農の法人化や農地中間管理事業の活用等により、令和4年の農地集積率は68.8%となっており、担い手への農地集積が進んでいます。

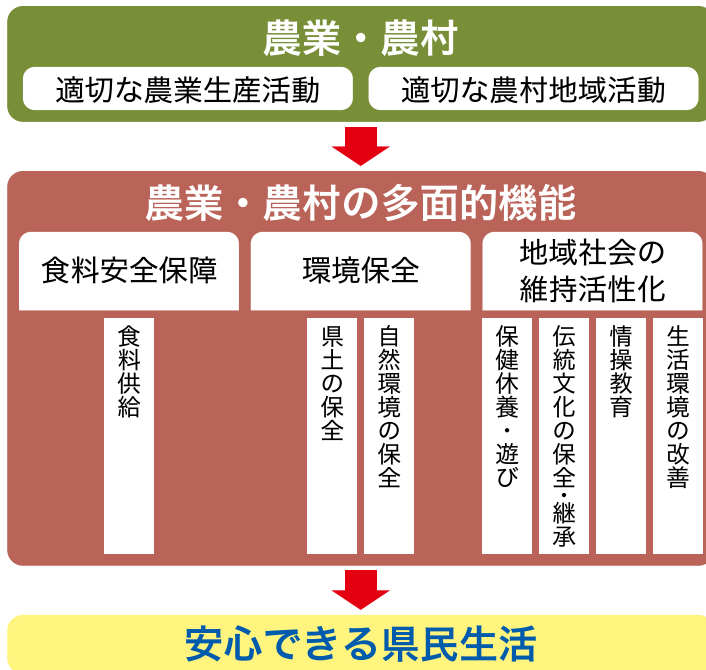


III 農業・農村が持つ多面的機能

農業・農村は食料を安定的に供給する基本的な役割を果たすとともに、農業生産活動を通じて、県土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、美しい郷土景観の形成、文化の伝承等の多面的機能を有しています。

【概念図】

【評価額】



区分	機能名	評価額
県土の保全	洪水防止機能	244 億円
	土砂浸食崩壊防止機能	18 億円
生活環境の改善	水質浄化機能	9 億円
	地域用水機能	13 億円
	産業誘発・生活道路等機能	230 億円
自然環境の保全	地下水かん養機能	149 億円
	クリーンエネルギー機能	64 億円
	気候緩和機能	2 億円
	生態系保全機能	48 億円
保健休養・遊び	リフレッシュ・癒し機能	48 億円
伝統文化の保全・継承	伝統文化の保全・継承機能	48 億円
情操教育	自然学習機能	45 億円
合計		918 億円

出典：富山県農村整備課調べ（H20 時点）

